科学技術賞「低線量放射線の健康影響に関する研究活動等を通じた理解増進」受賞概要　山岡聖典

成果の内容

公衆各層に理解増進し易い啓蒙方法の再構築

・放射線教育が不充分だったと政府原発事故調査委員会
・原子力分野・医療分野・観光（ラドン温泉）分野等における低線量放射線に対する健康リスク不安 他

↓

公衆各層の意識調査分析による知りたい情報・知るべき基本情報の整理と理解増進し易い啓蒙方法の再構築

↓

・他の放射線事故や生活環境因子とのリスク比較と教訓
・身近なラドン温泉による健康効果等の科学的実証 他

研究推進等により得た成果の反映

・低線量放射線による健康影響に関する学術調査の総括
・生活環境放射能の諸特性や低線量放射線による健康影響・効果等に関する我々の研究成果の集大成【別紙】

↓

科学的根拠の再構築と公衆各層への効果的反映

講演等による公衆各層への理解増進

・小中高校の生徒・教員，院生等若手研究者
・女性・高齢者・市民
・マスコミ・関連産業人
・原子力施設・ラドン温泉観光地元住民
・放射線業務従事者（原子力・医療）他

マスコミ活動等による当該理解増進

・各種新聞
・月刊・週刊誌
・テレビ・ラジオ
・関連専門誌
・インターネット 他

成果による社会的効果・実施効果

公衆各層の低線量放射線による健康リスク不安を低減するため，
研究推進等で得た科学的根拠を理解増進し易い啓蒙方法で反映

↓

・科学的事実や過去の教訓に基づく放射線教育・啓蒙の拡充
・住民等への積極的な情報発信と納得のできる説明への寄与
・公平公正で建設的な成果反映による報道被害の解消に貢献

低線量放射線による健康影響を正しく理解できない故の弊害の払拭・低減への寄与

ⅰ原発事故に伴う科学的根拠乏しい風評による物的被害（経済の萎縮）・人的被害（被災者への差別）及び，漠然とした健康や将来への不安等の払拭
ⅱ医療等での放射線利用に対する健康不安の低減

放射線（能）を正しく恐れ正しく利活用できる社会の実現への貢献

ⅰより合理的な放射線防護体系や低線量放射線の医療等への利活用方法の再構築への貢献
ⅱ原子力等人材育成の拡充に貢献